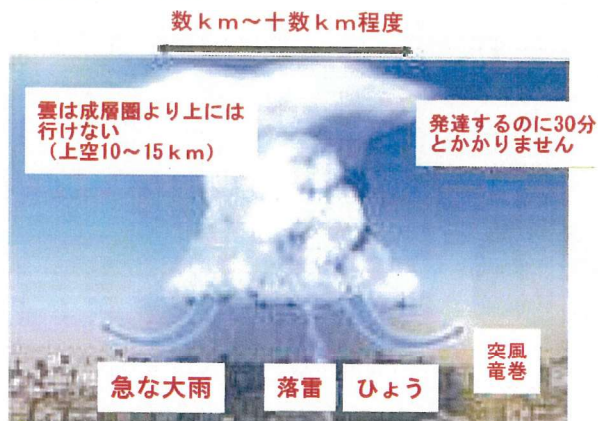


『火災保険』掛け方ガイド . . . vol. 12 自然災害の基礎知識②

前回に引続いて自然災害について皆様と共に考えていきたいと思えます。

今回は夏の積乱雲を原因とする「急な大雨」「雷」「竜巻」について考えます。

積乱雲の特徴



夏の時期、「朝は晴れていたのに午後突然の雷雨」といった経験をするがあると思えます。

こうした天気の急変は積乱雲がもたらしています。

積乱雲は幅数kmから十数km、高さ十数km程度の大きさで、気象条件がそろえば30分ぐらいで一気に発達します。このように急に発生することにより不意打ちを食らう形で被害が出ます。

急な大雨で怖いのは、川の急激な増水です。河原でのバーベキューや釣りなどを楽しむ人も多く、報道等で毎年被害の情報を目にすることも思えます。

一つの積乱の寿命は短時間（30分～1時間程度）
いくつかの積乱雲が次々と発生する場合は
大雨が数時間続き集中豪雨になることもあります。

今年の夏も落雷によって人的被害がでました。雷の直撃を受けると、約8割の人が死亡します。木の下で雨宿りをしていて死亡するケースも目立ちます。木よりも人間のほうが電気を通しやすい性質があるので、木に落ちた雷がそばの人間に飛び移る為です。木の下は非常に危ないことを覚えていてください。

雷鳴が聞こえたら近くの建物や車の中に入ること、建物がないときはとにかく低い姿勢をとること、これが雷から身を守る方法です。雷が遠くで鳴っているからといって油断は禁物です。雷鳴が聞こえるということはすでに雷の射程に入っており、いつ自分に雷が落ちてきてもおかしくない状況です。

竜巻はすさまじい風で狭い場所に集中して大きな被害をもたらします。日本では年間約20個が確認されています。いったん巻き込まれるとひとたまりもありません。身を守る方法は基本的に頑丈な建物の中に入ることです。2階より1階のほうが安全です。窓から離れた場所で机などの陰に身を伏せ、首や頭を守るのが基本です。

チェック！

積乱雲が近づく際は

「底の真っ黒な雲が見える」「雷鳴が聞こえる」「急に冷たい風が吹く」といった前兆が見られます。屋外にいるときはこのような異変を見落とさないように注意しましょう。

また気象庁ホームページに掲載されている「ナウキャスト」の活用も効果的です。

「降水」「雷」「竜巻発生確度」の実況と1時間先までの予想を見ることができます。5～10分ごとに最新の情報が掲載されるので参考になると思えます。